

## 学位論文の調査要旨

専攻名 (又は推薦専攻名)	地域イノベーション学専攻	氏名	飯田 香緒里
学位論文題目	アカデミアによる新たな価値創造と必要な施策 —医療イノベーション創出環境の検証に基づく考察— (英訳: Creation of new value from Academia and necessary measures -Consideration on environments for medical innovation-)		
調査委員会	委員長 岡崎 隆男 委員 西村 訓弘 委員 八神 寿徳		
<p>調査結果の要旨</p> <p>本申請論文は、医療系アカデミアに焦点を当てイノベーション創出環境に関する課題を整理、分析した上で、イノベーション創出にアカデミアが有するポテンシャルを最大限発揮するための方策を考察したものである。</p> <p>第1章にて、研究の背景として、イノベーション創出をめぐるアカデミアに対する期待の高まる状況、医療イノベーションの特殊性及び、その中で医療系アカデミアが果たす役割等を述べている。第2章では、2000年代前半から我が国大学の研究成果イノベーション創出環境整備の一環で講じられてきた法整備や公的支援事業の変遷を紹介しつつ、それによるアカデミアのイノベーション創出環境の変化を示す。続いて医療・健康領域のイノベーション創出に焦点を当て、医療系アカデミアのイノベーション環境に関する調査結果や医療系アカデミアのイノベーション創出に向けた取組事例を検証している。第3章では、医療系アカデミアの産学連携実務者や製薬企業職員に対して実施したアンケート調査の結果を踏まえて、産学共同研究等のパートナーリングに関する産学間の認識を検証している。第4章では、医療系アカデミアの産学連携実務者に対して実施したアンケート調査の結果を踏まえて、アカデミアの産学連携実務体制に関する課題を検証している。第5章では、我が国において近年増加傾向にある組織間連携スキームについて、一医療系大学の取組事例を用いて、その目的、効果、有用性等を検証している。最後、第6章では、結論として、アカデミアによるイノベーション創出環境における課題を総合的に分析した上で、必要かつ具体的な方策を述べている。</p> <p>まとめとして、新型コロナウイルス感染症の発生により生じた課題に対して、イノベーション創出は極めて重要な解決手段である。より良い未来を実現するために、イノベーション創出にも積極的に取り組むべきであり、大学等アカデミアを中心に、産学官共創の必要性はますます重要になってくる。イノベーションを牽引する主役として科学技術立国としての矜持をもって、実効的な制度の設計とその実行に向けた考察に取り組むものであると示されている。</p> <p>口頭試問において、調査委員会からいくつかの質問と課題の指摘があり、学位論文の修正を求め、対応すると返答を得た。</p> <p>以上の研究成果は、地域イノベーション学の研究として有意義であり、博士(学術)の学位を授与するにふさわしく、合格と判定する。</p>			